

特集

保護司 & 町議会

保護司は、法務大臣が委嘱した更生保護のボランティアで、犯罪や非行をした人の立ち直りを助けるとともに、犯罪予防の活動に取り組んで、地域の安全・安心に貢献している非常勤国家公務員です。全国で約5万人が活動しています。保護司のことを定める法律に「保護司法」があります。

これまでの経験をもとに個性を生かして活動している保護司の皆さまにお集まりいただき、お話を伺いました。

大勢の方々の理解と協力が 更生や自立に必要なんです

Q 保護司ってどんな活動をされているのですか？

「保護観察処分になった人が、罪を償った後に、社会でしっかりと自立していけるようにサポートをするのが主な仕事です。そのために、面接したり、相談にのったり、場合によっては仕事を見つけるのを手伝ったりします。」

「社会を明るくする運動」もその一つで、この運動は全国的に展開されている運動です。大勢の方々の理解と協力がそうし

た人たちの更生や自立に必要なんです。

Q 保護司になったきっかけは？

「保護司の先輩の方から勧められ、初め、保護司ってどんな仕事か分からなかったので、ちゅうちょしていたんですが、話していくうちに、大切な仕事だと思いつけることにしました。」

「中学校に勤めていたとき、当時は校内暴力が問題になっていて、その時に保護司のお世話になっていたので仕事の内容は

きるようにしています。

「保護観察が終わった子には、忘れたい過去になると思うので、自分からは声をかけないようにしていますが、向こうから挨拶してくることもあります。」

Q 保護司をしていて良かったと思った経験は？

「保護司の役目が終わってから、「高校卒業した」「結婚した」「車買った」と会いに来てくれて、その時見た笑顔は忘れられません。」

「ありがとう」って花束をもらいました。引っ越して担当地区が変わった時に、「保護司は変えないで」ってお願いしてきた子がいました。その時は嬉しかったです。

「以前担当していた子が、結婚して家族ができて、正月になると家族連れであいさつに来てくれました。」

Q どんなことに苦労されていますか？

「就職先を探す時に、瑞穂町には受け入れてくれる協力雇用主さんがいてくれて、本当に助かっています。

月に2回は担当している人を自宅に呼んで話を聞く必要があります。できれば自宅のほかに町にも相談室があればありがたいです。」



法務省 HP より

知っていました。定年になって社会貢献しようと思って、保護司への誘いがあった時に当時の恩返し of 気持ちでなりました。

「議員から紹介されて。縁の下 of 力持ちになれればと引き受けました。」

Q どんなことに気を付けていますか？

「とにかく話を聞く。それが本当でもうそと分かってても。

「面接も横に座ったりして、リラックススで

Q PRをお願いします。

「ほかの地区でも「社会を明るくする運動」の駅頭活動で中学生が協力してくれています。その企画は、私たち瑞穂分区から始まったんです。」

Q メッセージはありますか？

「中学卒業後に非行に走る子供たちが増える傾向にあります。中でも勉強が苦手、将来の目標が見えずに自暴自棄になっている子が多いです。勉強が必要なのは遠からず本人が気付きます。どんな形でも高校は卒業してほしいです。」

「都立の定時制高校が減少傾向にあります。子供たちの将来のためにも、定時制高校がもっとあれば…。」

「非行に走った子の多くが「寂しかった」と言っています。孤独を感じさせないよう to 声掛けをしてほしいです。

「とてもつらい境遇で生きてきた子もいます。自分も同じ境遇だったらどうだったろうとを考えてしまい、「生きていてくれただけでもすごい」と思います。」

Q 夢や目標があったら教えてください。

「犯罪を減らし社会を少しでも明るくするためのボランティアとして、誇りと使命感を持って取り組んでいきたいです。」

「参加してくださった保護司の皆さん、ご協力ありがとうございました。」



法務省 HP より



地域の子カラで立ち直りを支える更生保護